

令和7年度 教育保育活動等に対する学校評価書

令和7年2月18日

学校法人めぐみ幼稚園 めぐみこども園長 山田典子

学校法人めぐみ幼稚園 学校関係者評価委員長 堀 勇至

1 幼稚園の教育目標

昭和22年創立以来、キリスト教の「愛の精神」を根底におき、乳幼児の発達に相応しい心の教育を行っている。共に喜び、共に育ち合うために、保育者は一人一人の内面を理解し温かくきめ細やかな援助を行う。また、主体性や協同性を発揮して遊べる環境を構成し、生きる力の基礎を培うことを目標とする。平成27年度より幼保連携型認定こども園 めぐみこども園に移行したが、創立の精神は大切に守っている。

1. 子ども自身が大切な存在として受け入れられていることを実感し、自分自身を喜びと感謝をもって受け入れることができる。
2. 目に見えない神の恵みを、常に感謝と喜びをもって受け止め、神に愛され、人にも愛され、喜びをもって人と関わることができる。
3. 自分と他の違いを認めると共に、友だちと共に喜び、共感できるようになる。
4. 主体性を持って心を動かし、探求心、判断力、想像力をもち、創造的に様々なことに関わるようになる。
5. 感じたこと、考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現力、想像力を身に付ける。

2 本年度の重点目標（学校評価の具体的な目標や計画）

【重点目標】

- ・教育課程、指導計画の内容を確認し、新たに年間カリキュラムを作り替え、子どもの育ちに着眼して計画し、実践していく。また、キリスト教保育の年間主題を「ともに」とした。
- ・感染症対策として、園児・職員の手指の消毒、配膳前の配膳シートや保育者の手指の消毒等は引き続き実施していく。
また、発熱時の保護者へのお迎え要請は、感染症が増加してきた場合に37.5度以上を目安とする。
- ・保護者や地域との連携を深め、信頼される温かな幼稚園づくりを目指す。
- ・外部講師による保育実践の研修を通して、教員の資質向上を図る。また、様々な行事の内容も見直し、より保護者も園の活動を応援したくなるようなものにしていく。園児減少により、行事の持ち方を再検討する。
- ・特別支援を要する園児に対する理解を深めるため、巡回指導の臨床発達心理士から助言を受ける。必要に応じて保護者にも臨床心理士との面談を勧め、実施された際にはこども理解と今後の保育の方向性を共通理解する機会とする。
- ・教育要領の中にある「卒園までに育てたい10の姿」を研修テーマとし、その姿に向かうための活動を各学年で考え、取り組んでいく。

乳児

- ・母親と離れて新しい環境で過ごすことへの不安を解消し、安心安全に過ごし、楽しさを見いだせるように援助する。
- ・一人一人の生育歴や生活環境、個性を理解し、保育教諭の共通理解を図る。
- ・自立を目的とし、お手伝いを初め乳児自らが生活に必要なことを進んで行えるよう指導、援助を行う。

幼児

- ・安心感や信頼感が得られる環境の中、友だちの良さに気づき、心も体も動かして意欲的に活動するように援助する。自己肯定感がもてる子どもを育成する。
- ・友だちとのかかわりを深め、協同性を育む豊かな体験や活動ができる保育を創造する。
- ・園内環境に留まらず、近隣の地域環境を利用してより多種多様な経験ができるよう計画を立てる。
- ・小学校教育へのなめらかな接続を視野に、人間関係・コミュニケーション能力、規範意識等を身に付けさせる。
- ・基本的な生活習慣を見直し、一人一人の課題について保護者と共に見直し改善に向けて努力する。また、生活力の向上を図るため、お手伝いや運動にたくさん取り組む。

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果評価点は A:十分に成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	こども園としての反省と改善策	評価点	意見
保育の計画と実践について	<ul style="list-style-type: none"> ・園の理念・教育課程、指導計画の内容を確認し、教職員の共通理解を図り教育の質を高める。 ・キリスト教の「愛の精神」について学ぶ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保連携型認定こども園教育保育要領の理解を全教職員で積極的に推進し、実態を把握しながら日々の保育の改善に繋がる研修を継続していきたい。 ・乳児期に最も重点を置いている「生活面」の成長を、ほぼ全員の保護者からアンケートにて成長を実感していると回答があった。今後も更に成長を続けていけるよう努力したい。 ・毎月「キリスト教保育誌」を読み合い年間主題について意見交換を進めた。幼児の具体的な場面を話し合うことでキリスト教の「愛の精神」を共通理解できた。保護者アンケートからも、半数以上の保護者が今年度の育ちとして「思いやりの心」が育ったと評価している。 ・外部講師による定期的な園内研修にて、実践を通して園児の発達や保育方法、教材研究のポイントなどを指導して頂いた。絵画や制作物に対しては、園内外からも高く評価されている。また、運動面や生活面でも成長を感じたと保護者アンケートの回答から読み取ることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時の子ども達の様子を垣間見るだけでも、一人一人が生き生きと楽しんでいる様子が伺える。行事に参加しても、どの子どもも表情が明るく、一生懸命取り組んでいる様子を見ると、日々の教師の援助の細やかさや温かみを感じる。また、教師の言葉遣いが丁寧であることが、子ども達の思いやりの心につながっているように感じられる。 ・「ひびき合う」が今年度から写真中心となり、子どもの活動の様子が写真を通して見られるようになったため、子どもと一緒に見ながら会話することが増え、国賀的であると感じた。 ・外部講師が絵画制作のみではなく、日々の保育全般の研修をしていることは、非常に有効であり保育の質につながっていると感じる。行事や保育参加会でも、クラスのテーマや教材の選び方・使い方が毎回違い、よく研究されている。今年も清水私立幼稚園協会主催「5歳児絵画展」が協会HPで公開されたが、めぐみの子ども達の作品は際だっていた。 ・母の日、父の日、感謝祭、クリスマスなどで、園で作ったプレゼントの質が高く、毎回感動させられる。これは教師の指導の賜物と思う。 ・アプリを通じてお便りやお知らせ・メールが配信されるのは、手元で確認したいときに見ることができる為、非常に有効であると感じている。

<p>保育のあり方、乳幼児への対応</p>	<p>乳幼児の生活や発達に即した援助について</p>	<p>・クラスの担任だけでなく、全教職員が園児一人一人の内面や家庭環境を理解し、優しく温かな援助を行い、発達課題について日々検討している。交流を通して乳児と幼児の教員のコミュニケーションを多く図ることで、異年齢のかかわりも増し、子ども理解が深まっている。</p>	<p>・全教職員が全員の子どもをよく理解し、丁寧に関わっているため、安心して子どもを預けることができる。</p>
<p>発達障害児の援助</p>	<p>異年齢交流</p>	<p>・幼児と乳児の交流や、幼児の中での異年齢交流を増やすことで、大きい子は小さい子に優しく、小さい子は大きい子への憧れを持ち、互いに学び合い刺激合っている。小さいクラスへ年長児が行き、掃除や集まりのゲームでお手本となったり、道具の使い方を教えたりする役目を担うことも有効であった。</p>	<p>・異年齢交流の再開は喜ばしいことだと感じている。もとより優しい年長、年中児だが、自ら率先してやることを見つけようとしていたり、年下や乳児の世話も積極的に行う姿も見られるようになり、親としても嬉しい限りである。縦割り保育ではないが、同じ効果が得られているように思われる。</p>
<p>食育の充実</p>	<p>預かり保育</p>	<p>・引き続き、子どもたちに片付けや掃除の楽しさを伝え、子どもと共に環境を作り上げるよう心掛けている。「ありがとう」と感謝されることで、「素直さ」を伸ばしていきたい。</p>	<p>・生活経験や直接体験に欠ける子どもが増えているように感じる中、園側で補おうと努力していることを感じる。</p>
	<p>行事の見直し</p>	<p>・引き続き、子どもたちに片付けや掃除の楽しさを伝え、子どもと共に環境を作り上げるよう心掛けている。「ありがとう」と感謝されることで、「素直さ」を伸ばしていきたい。</p>	<p>・様々な家庭の事情から預かり保育の人数が増えているが、充実した活動内容が考慮されており、安心して利用している。おやつは市販のものが少なく、子どもの体に対する暖かな配慮を感じる。</p>
	<p>食育</p>	<p>・預かり保育時間も、年長の希望者はクラスへ行き、掃除や翌日の準備、行事の準備等を手伝っている。その分、ホールやはやしぐみの人数が減り、担当者が手厚く年少・中と関わることができている。しかし、毎日長時間預かる園児が多く、遊びのマンネリ化も課題となっている。</p> <p>・1学年の人数が今年の年長より大幅に減少しているため、行事の持ち方を検討した。運動会・感謝祭は例年通り行ったが、クリスマス会は2日間を1日のみとした。</p> <p>・給食は勿論のこと、おやつも給食室で手作りを基本としている。メニューを伝え、料理に合ったカトラリーを選ばせることで食事のマナーも学んでいる。</p> <p>・夏野菜の栽培に加え、ワクワク広場に畑を作ったことで、野菜の生長を日々見届けることができ、観察していた野菜が給食に出ることで、食への興味関心が深まった。</p> <p>・畑が身近にあることで、野菜の水やり、生長の観察をするとともに、そこへ寄ってくる虫なども見られた。それらを絵画にしたりと、総合保育が実践できている。</p>	<p>・保護者参加の行事では、家庭で見られない子ども達の成長を見ることができた。親から離れて頑張っている子ども達の姿は本当に輝かしいものであった。そこに尽力してくださる先生方の努力には毎度感服している。残暑が長引く昨今、運動会の熱中症対策は、親としても心配なことであったため、練習を含め園が対策を講じていることは非常に安心につながった。</p> <p>・めぐみこども園は給食が美味しいことで定評があるので、このまま手作り給食・手作りおやつを続けてほしい。また、野菜作りなどを通しての食育教育も引き続き深めてほしい。</p> <p>・野菜作りから食育体験へと繋げていく活動も意義深い。また、プランターや鉢植えの花も子ども達の手で植え替えや世話をしており、情操教育として有効である。</p> <p>・子ども達が大好きなアスレチックなので、今後も安全管理に務めてほしい。</p>

<p>保健・安全指導</p> <p>不適切保育について</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、園庭の遊具の安全チェックや砂場の衛生管理を行っている。 ・特に乳児には注意を払い、室内の衛生管理、安全管理を日々チェックしている。 ・11月にインフルエンザA型が流行し、学級閉鎖を余儀なくされた。対象クラスの保護者が全面的に協力してくれたため、それ以降拡大せず収めることができた。 ・幼児は別館と本館の間に公道があるため、交通安全教室で道の渡り方を指導してもらい、お散歩や帰りの道でも子ども自身が注意を払えるよう教員が指導している。 ・今年の夏の暑さは昨年ほどではなかったが、非常に厳しかった。昨年に引き続き暑さ指数計を設置し、活動実施の目安とした。屋外活動が制限される中、園児の体力低下を危惧し、リトミック活動を多く取り入れ、体力増進に心がけた。これらは夏休みも実施した。 ・キリスト教保育を実践していることから、「他者への思いやり」「互いを尊重し合うこと」を子ども達へ伝えている。それは子ども同士のみならず、保育者同士も同様である。イエス・キリストの教えを、学ぶため、毎月のバイブルクラスで牧師から教えを受け、キリスト教の理解に励み、それを子ども達へと降ろしているが、保育者自身の心の糧ともなっているからこそ、子ども達へ降ろせるのである。 ・教職員の人間関係は、正規・非正規ともに明るい雰囲気です。仲が良く、働きやすい環境であり、年齢・経験を問わず一人ひとりが大切にされる環境がとても良いという意見が出た。また、日々の報告で子ども達の様子を伝え合い、全員の保育者がすべての子どもを理解し対応していることで、保育者集団としての団結を強め、保育者個人の安心にもつながっている。そのことは、保護者アンケートからも感謝の言葉が多く寄せられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具に関する事故の報告もなく、遊びの中でのけが等に対しては、真摯に対応してもらっている。 ・様々な感染症が未だに流行する中、対策を続けてもらえて感謝している。感染拡大が危ぶまれるときには、メールにて注意喚起されているので、保護者としても対応しやすく、他の保護者も対策をしていると感じられるので安心感につながっている。 ・異常な暑さの中、子ども達の健康管理に配慮されていることが伺える。子ども達は毎日のプールを楽しみに登園していたため、とてもありがたく思っていた。水道代も高くなってしまうため、園の運営に負担がないようにして頂きたい。リトミックも、楽しく体を動かせる効果的な活動である。楽しく体を動かし、体力作りにつなげてほしい。 ・めぐみの保育はとても丁寧で、担任にかかわらずどの教職員も全員を理解・把握して暖かく見守ってくれれば、乳幼児どちらの保護者アンケートにも多くの声が寄せられていた。子どもを「ひとりの人」として大切に扱い、「良き人」となる為に、善悪についてきちんと伝え育てていると感じる。その為子ども同士のトラブルがあっても、正当に対処されており、子どもも納得して反省すべきところは反省し、保護者として安心感が得られる。これからも、子どもからも保護者からも信頼の厚いかかわりを続けてほしい。
---------------------------------	--	---	--

<p>スクールバスの安全点検について</p> <p>障害の特性や個別の支援方法について</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・乗降時の人数・名前確認を徹底しダブルチェックを欠かさず行っている。また、降車後もバス運転手が停車後に座席を確認し、置き去り防止アラームを押している。 ・出席確認は毎日バスが到着してから、保育室へ連絡し、出席と遅刻・欠席の確認を行っている。連絡のない遅刻者へは連絡をし、保護者に確認している。 ・巡回指導の臨床心理士による個別指導の下、具体的な手立てを保育者間で共有し、保護者と面談してもらうことにより、保護者の子ども理解が深まり、子どもの成長がみられた。また、外部の支援施設に通所している園児が増えてきた。施設の教員の訪問を受け入れ、園、家庭、支援施設の3者で共通理解を得て子どもの育ちにつなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の大切な命を守るため、数多くの確認をして頂き感謝している。欠席登録を忘れた際の園からの連絡についても、必ず連絡が来るという話が保護者間でも上がっている。 ・発達障害の子どもの研修は今後も継続して行ってほしい。また、巡回指導のカウンセラーの指導があることは、教員だけでなく保護者の安心にもつながっていると感じる。保護者の子ども理解も深まる良い機会となるため、継続して行ってほしい。
<p>友だちとのかかわりを深め、協同性を育む体験や充実した環境の工夫と援助について</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自己発揮できる場面や友だちの良さを認め合い仲間づくりができる環境を設定している。また、友だち同士のかかわりを深め、一つの目標に向かって協同する体験や活動ができる環境を整えたことで、自信を持つ姿が伺えた。しかし、クラス的人数が少なくなったせいか、友達関係が強くなってしまうと、そこに固執する場面も見られた。来年度からも、他の友達にも目が向けられるようなかわり方を検討する必要がある。 ・今年度も猛暑であったため、園外保育で思い切り体を動かす経験、豊かな自然に触れ合う機会が減少してしまったことは残念に思う。しかし、昨年の反省を受けて、園外保育の時期や実施場所等を検討することで、中止とすることはなかった。年長児の自然遊びも短時間ではあったが黒川のキャンプ場へ川遊びに行くことができた。天候・気候を見ながらの園外保育は判断が難しいが、できるだけ実施し、体力向上、道徳性や豊かな感性の芽生えにも繋がる活動を取り入れていきたい。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が子ども達一人一人の性格や特性を理解し、関わっているお陰で、友達同士で切磋琢磨し、刺激し合いながら成長している様子が伺える。年長になってからのクラスの団結力や、協力して活動する場面から、小学校への基礎が培われていると感じた。今しかできない素晴らしい体験をさせてもらっていると感じる。 ・昨年度は室内活動であったため、今年度は少しでも自然体験ができて良かった。気候相手の判断は園としても難しいものであると思うが、子どもの健康と経験してほしいものを天秤にかけ、ちょうど良いバランスで活動内容を柔軟に検討されていると思う。

<p>小学校教育・家庭との連携について</p>	<p>規範意識を高め、小学校入学への滑らかな接続を図る</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートが、家庭での生活を知る良い機会となった。小学校生活に向けて不安を抱えている保護者の声もあったが、多くの年長児が自立できていると感じる。 ・体力作りとお手伝いが生活力の基盤となるため、晴れている日には園庭においてアスレチックを活用したサーキット運動を実施した。また、時間の意識、持ち物の整理整頓など基本的な生活習慣を見直し、「できることは自分でやる」ことで、自信をつけるための研修を重ね実行した。 ・公開保育を実施し、小学校の先生方へ当園の保育や子どもの実態を見て頂く機会とした。 ・5歳児は近隣の小学校訪問をして1年生との交流会に参加し、1年生から小学校でどのような活動をするのか教えてもらい有意義な経験となり、小学生への意識や期待が高まった。 ・交通安全教室を通して、通学の心得や安全な歩行について学ぶ機会をもった。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨今、子どもが事件に巻き込まれるニュースを多く耳にするため、保護者としては心配が尽きることはない。多数の小学校へ入学するため、心細い子も多いだろう。しかし、こども園で培った学びや協同性、生活の基礎などが、小学校生活に活かされていくと期待している。 ・小学校への期待と不安を抱えている年長児にとって、小学生との交流は、一つの安心材料になったと推察する。また、小学校への意識が高まったのではないかと思う。今後もこのような交流や小学校の先生と連携を深めてほしい。 ・教職員が近隣の小学校へ授業参観に行って、卒園生を励ましていると伺い、とても意義深いことと思う。今後も継続してほしい。 ・近年、子ども達を取り巻く環境が様々に変化して、生活力の乏しい子どもが増えていると思う。子どもだけでなく、子育てに自信が持てない親も多い。園では子どもと親の両者が学べる場として教育を提供してほしい。
-------------------------	---------------------------------	---	---

<p>教師としての資質や能力・良識・適正</p> <p>研修と研究</p>	<p>専門家としての能力・良識・義務</p> <p>保護者対応</p> <p>地域の自然や社会との関り</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師としてのプライドを持ち、園外においても言動に十分気を付けている。 ・組織の一員として各々の役割を果たし、教職員同士尊敬の気持ちを持ち人間関係を大切にしている。 ・子どもを取り巻く社会情勢に常にアンテナを張り巡らせている。 ・個人情報等守秘義務は遵守している。 ・対面研修が増え、実技研修も行われるようになったので、直接講師から講義を受ける研修が保育者の資質向上につながっている。リモート研修も園内で受講できるため、有効活用している。 ・保護者には誠実な態度をとり、子どもの育ちについて理解と協力を頂けるようコミュニケーションをとっている。 ・保護者からの意見は真摯に受け止め、園長はじめ教職員で話し合い、改善できることは即実行に移している。 ・お散歩マップを作成し、地域の道路や施設（公園など）の環境を把握し、自然のみならず安全面に関しても注意深く見直しをした。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めぐみこども園の教職員であることを常に心に留めて建学の精神を大切にしていくことで、地域の人々から信頼される園になる。卒園生もこの園をずっと愛し見守っていることを忘れないでほしい。 ・子どもの園での様子を、面談や行事参加の際に担任から説明を受けるときには、子どもの性格や取り組んでいる活動、友だち関係など、多岐にわたって聞くことができる。担任保育者の視点や子どもの見取りの細かさに驚かされることが多い。丁寧な言葉づかいで、親の立場も理解した話し方をされるので、信頼がおける。 ・以前、県外におけるお散歩中の事故もあったので十分注意し、近隣の環境を上手に保育の中に取り入れていってほしい。
---------------------------------------	---	--	--